

下水道は、快適な市民生活を支える 都市の最も基本的な施設です。

下水道の役割①

災害に強い都市基盤を整備し、
安全で安心なまちづくりを進めます。

下水道の役割②

水の都大阪の魅力を引き出す
水環境の創造に貢献します。

下水道の役割③

循環型・低炭素社会の実現と
快適な都市環境の確保に
貢献します。

浸水からまちを
守るのね

大ちゃんの友だち
びん子

家庭などからの下水を下水処理場
まで自然に流すには、地中深くまで
掘り下げなければなりません。そこ
で、途中で抽水所(ポンプ場)を設け
下水をくみあげます。また、降雨時
には、下水道管に流れこんだ雨水を
速やかに河川へ排除して、浸水を防
止します。

水処理施設

抽水所(ポンプ場)

家庭や事業場などから排出された
汚水や道路などに降った雨水は、地
中にある下水道管に流れ込みます。
下水道管には傾き(勾配)があり、下
水は自然に流下していきます。

下水道管は傾いて
埋まっているんだ

沈砂池・スクリーン・ポンプ

沈砂池とスクリーンで
大きな砂やごみを取り
除き、ポンプでくみ上げ
て沈殿池に送ります。

下水を静かに流して
汚濁物を沈殿させます。
ここまでの処理を
「簡易処理」といいま
す。

沈殿池

沈殿汚泥

反応槽

好気性の微生物のついた活性汚
泥を加えて空気を吹き込むと、
微生物は増殖しながら下水中の
汚濁物を吸収・分解します。

沈澱池(最終沈澱池)

静かに流すと、活性汚泥が底
に沈み、上澄みの水はきれい
になります。ここまでの処理を
「高級処理」といいます。

急速ろ過池

さらにきれいにするために
行う処理を「高度処理」とい
い、砂ろ過などいろいろな方法
があります。

塩素混和池

処理水は消毒して河
川に放流します。

きれいになって
川にかえるよ

大阪市下水道
公式キャラクター
大ちゃん

下水道の役割(そのほかには…)

下水処理場の上部を公園等に利用する、処理水をせせらぎに利用するなど、
アメニティ空間を創造し、ゆとりとうるおいのある魅力的なまちづくりに貢献します。

汚泥処理施設

沈殿池や沈澱池の
底に沈んだ汚泥を濃
縮し、体積を減らし
ます。

濃縮した汚泥を発酵
(消化)させ、さらに
量を減らします。

汚泥を脱水します。

溶融または炭化処理します。溶融スラグは、建設資材
として、炭化物は火力発電所の石炭代替燃料として有効
利用しています。(舞洲スラッジセンターと平野下水処理場で集中処理)

濃縮槽(濃縮タンク)

消化槽(消化タンク)

脱水機

炭化炉

溶融炉

溶融スラグ

建設資材
として
有効利用

火力発電所
の燃料として
有効利用

数字で見る大阪市の下水道

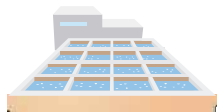
99.9%

処理人口普及率及び水洗トイレの普及
率は、99.9%です。



12か所

下水処理場は12か所あります。
この他に、下水汚泥を集中処理する舞
洲スラッジセンターがあります。



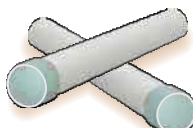
2,844,000m³/日

12か所の下水処理場では1日に、
2,844,000m³の下水を処理すること
ができます。これは、大阪市の庁舎を
ますにして、およそ12杯分です。



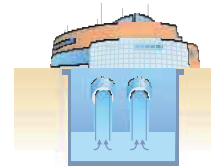
4,954km

市内には、管径20cmから6.5m
の下水道管が網の目のようには
りめぐらされており、その総延長
は4,954kmもあります。



58か所

抽水所(ポンプ場)は58か所ありま
す。



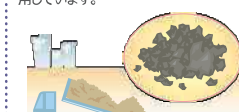
1,360m³/秒

抽水所(ポンプ場)と下水処理場のポン
プ施設をあわせて、1秒間に約1,360m³
の水を排水することができます。これはドラ
ム缶およそ6,750本分にあたります。



1,050トン

大阪市では、下水処理などによって発生す
る下水汚泥を1日に1,050トン処理(溶融ま
たは炭化)することができ、建設資材または
火力発電所の石炭代替燃料として有効活
用しています。



79.7%

大阪市では、概ね10年に1回の大雨(1
時間あたり60mm)でも浸水しないこ
とを目標に整備を進めていますが、こ
のような下水道整備ができた区域の
比率(雨水対策整
備率)は79.7%
となつて
います。

